

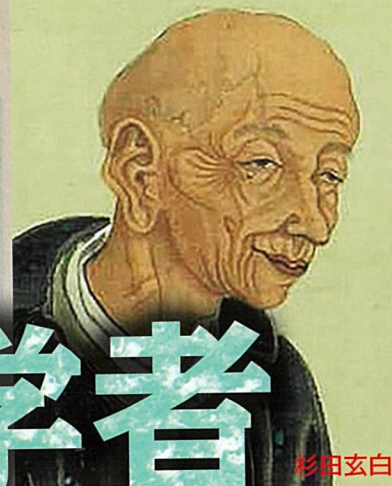
第40期特別記念展

医師・医学者の書展

令和8年8月7日(金)~11月29日(日)
(お盆休み:8月13日~15日)

江戸から近代へと、医学を通じて
時代を切り拓いていった、
医師・医学者の書を展覧します。

『解体新書』序図



杉田玄白



華岡青洲



松本良順

小原道城書道美術館

札幌市中央区北2条西2丁目 札幌2・2ビル2階

入館料: 300円 (大学生以下無料) 休館日: 月曜日

ART
GALLERY
HOKKAIDO

アートギャラリー北海道

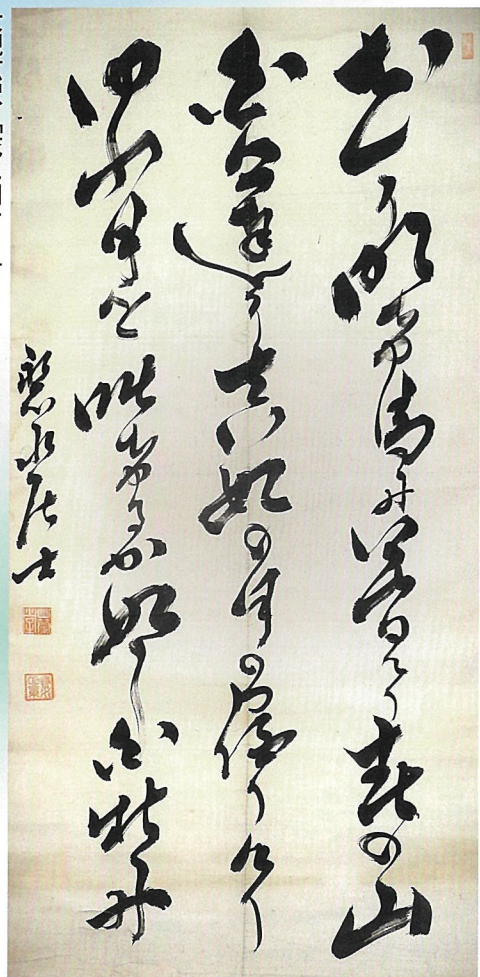
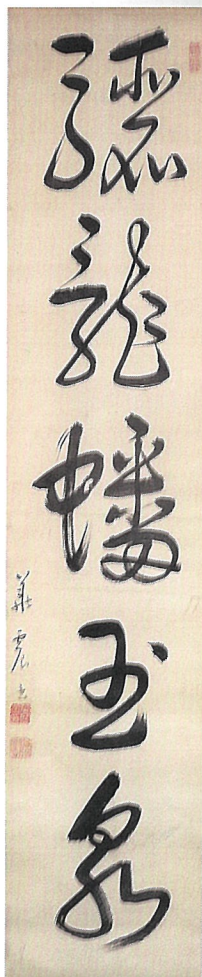
江戸期から近代に至る期間の、医師・医学者の書を展覧します。

江戸期の医師・医学者は、儒学を基礎とする「儒医」が多かったようです。その医学は、中国由来の漢方医学が主流でしたが、親試実験を標榜した吉益東洞などの古方派、様々な考えを包摂する和田東郭らの折衷派、西洋医学を紹介した杉田玄白らの蘭方派、西洋の学術知識を取り入れた華岡青洲などの漢蘭折衷派などが興りました。

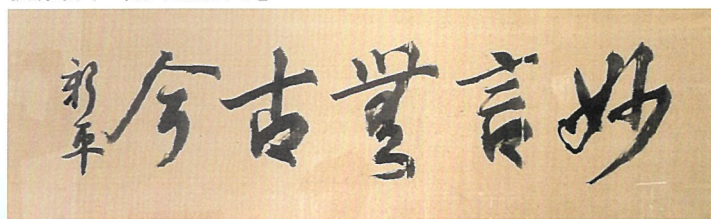
医学の実践的な側面は、合理的科学的思考を養い、産科医賀川玄悦による胎児の正常胎位の発見や、華岡青洲による麻酔薬の発明と全身麻酔による乳癌手術は、江戸時代我が国医学の二大貢献と称されています。

蘭方医学は初期の医学書翻訳から、シーボルト、ポンペらによる本格的な臨床医学の指導、更には種痘の導入普及を通じて、一気に医学の近代化へと向かっていきました。またこれに伴い、諸科学や社会全体の近代化へと、新たな時代を切り拓いていく一大原動力ともなっていました。本展では、貝原益軒から齋藤茂吉に至る、江戸から近代までの時代を担った医師・医学者二十九名四十六点の書を展覧し、彼らの素養や趣味、また医学や人間に対する見方・考え方などを窺います。

華岡青洲「驪龍蟠玉泉」



後藤新平「妙言無古今」



こはらどうじょう 小原道城書道美術館

〒060-0002

札幌市中央区北2条西2丁目41

札幌2・2ビル2階

お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）

開館：午前10時～午後5時

休館：毎週月曜日

交通：JR 札幌駅より徒歩5分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩5分

